



夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2024.6.25 号

夏見台幼稚園・保育園でのこ
わりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。
※配信停止の方はメールでどうぞ (info@treponte.jp まで)

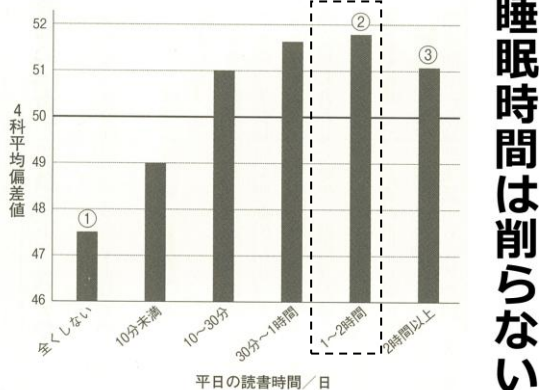
〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼保園

絵本の読み聞かせは「心の脳」を刺激する

東北大加齢医学研究所の先生たちによる『「本の読み方」で学力は決まる』（青春出版社）を読みました。2018年出版なので若干古い本ですが、仙台市の小中学生約4万人のデータを土台にまとめられています。



読書時間と成績の関係 (2017年仙台市小5～中3約4万人調査)



睡眠時間は削らない

読書時間と4教科（国数理社）の偏差値の関係ですが、平日の読書時間が「1～2時間/日」の子どもの成績がもっともよくなっています。ただ読書は長ければいいというわけではなく、2時間以上の読書は睡眠や勉強の時間を奪うようです。

また当然ながら、スマホ使用時間が長いほど読書時間は失われました。

この東北大学のグループ（川島隆太元教授）はスマホの害を盛んにアピールしており、

スマホ利用 ⇒ 読書時間↓ ⇒ 学力↓

をさかんに主張します。

確かに、読書習慣は学力にプラスになると思います。ただ何をもって「学力」とするのかは問題です。

この本の出版は2018年。まだChatGPTのような生成AIが現れる前です。今2、3歳の子どもが20年後に受験する大学入試は、おそらく、今のような学力試験ではないでしょう。

2023年6月には筑波大学の学長から、以下のような発信がありました。



永田学長は、5年後をめどに入試改革を行い、二次試験を面接や小論文重視に変更するとして

います。国の実験的な高等教育機関である筑波大学からのメッセージには、一定の影響があると思われます。

面接と小論文から問われるのは、限定された場所と時間の中で示される、

即興での「話す力・書く力」

になります。

私自身も大学入試に小論文があったので「書く訓練」にはとても多くの時間を費やしました。話すことにも書くことにも訓練方法はありますし、技術を上げることもできるでしょうが、最後に残る問題は、

テーマ(主題・問題意識)をどうするか？

になります。これはなかなか難しい問題です。

私はある出版社の知り合いを通じて、売れっ子のゴーストライターと話したことがあります。忙しい有名人にインタビューして代わりに本を

書く職業の人です。

私が「自分の名前で本を出版しないのですか？」と質問すると次のように答えました。

**私には「書く技術」はあります。
しかし「テーマ」がないのです…**

私は何か大変なことを聞いてしまったな、と今でも覚えています。

テーマがなければ技術があっても…

逆にテーマさえある人生ならば、技術を持った人を使うことができます。まさに人工知能時代の生き方です。

ではそのために幼児教育ができることは何か？テーマとは問題意識であり、もっと砕けた表現でいえば「好き嫌い」です。つまり、

自分の感情をしっかり表現すること

です。

そんなことを考えていた時に、おもしろい本に出会いました。『読み聞かせは心の脳に届く』（泰羅雅登著、くもん出版）です。

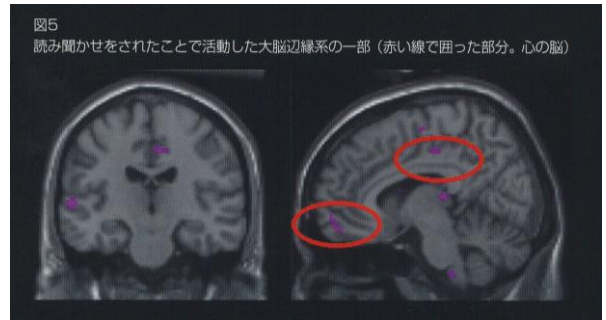
音読をすると脳の前頭連合野（おでこの裏の部分：知的活動をつかさどる）が活性化します。絵本好きは本好きにつながるので、きっと読み聞かせのときの子どもの脳は、前頭連合野が活性化しているに違いない、と泰羅氏は予測を立てました。そこでMRIで脳画像を撮りました。

事前に母親が絵本を読む様子をビデオに収め、



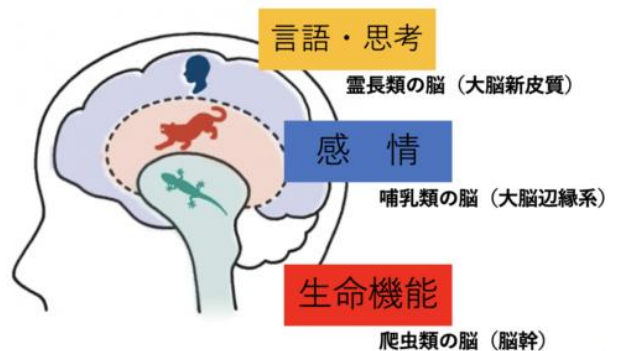
MRIの中で子どもにその映像を見てもらう方法です。その結果…

残念ながら、前頭連合野はまったく活性化していませんでした。しかし下の図の○の部分、



大脳辺縁系が活性化していました。ここは「感情」をつかさどる部位です。絵本の読み聞かせは子どもの「心」に届いていました。

脳は三層構造になっています。①脳幹（爬虫



類の脳：生命維持）→②大脳辺縁系（哺乳類の脳：感情）→③大脳新皮質（霊長類の脳：知性）です。発達もこの順序です。前頭連合野を含む大脳新皮質は、成人にかけてゆっくり発達していくことがわかっています。

幼児期にはまず大脳辺縁系：心の脳を豊かにすることが大切です。絵本が子どもの心＝感情を豊かにすることが脳科学的にもわかりました。絵本を含む遊び体験の中から、子どもが感情を育み、テーマのある人生を送ってくれることを私は願います。（終）